

専門学校東京 CPA 会計学院

学校関係者評価報告書

令和元年度

実施日 令和2年5月17日

※令和元年度学校自己評価（基準日：令和2年5月1日）をもとに評価実施

令和元年度 学校関係者評価報告書について

学校法人高橋学園専門学校東京 CPA 会計学院は、すべての教育活動・学校運営業務において、現状を客観的に確認しながら評価し、改善向上を図るため学校自己評価を実施しています。この度、令和元年度より、教育・学校運営に反映すべく学校関係者評価を実施しました。本年度からは学校自己評価及び学校関係者評価を毎年実施してまいります。

本校に関係の深い方々のご意見を広くお聞きし、その際にいただいた多くの貴重なご意見は、その後の施策に反映させていただき、あらためて学校評価の重要性を認識しているところです。

この度は、卒業生・会計関連業界団体の皆様 や会計・教育等に見識をお持ちの方々に令和元年度学校自己評価の結果をお示しし、ご意見をいただきましたので、ここにご報告させていただきます。

今後もより良い学校となるべく教職員一同、一層努力して参る所存です。引き続きご支援、ご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年5月

学校法人高橋学園

専門学校東京 CPA 会計学院

校長・学校評価委員会委員長

高橋 幸夫

学校関係者評価の実施方法と今後の取り組み

【評価委員】

学校教育法施行規則の規定、文部科学省、東京都ほか関係行政機関の指導・ガイドラインをふまえ、卒業生、会計関連業界団体・企業等3名の方々に評価委員をお願いいたしました。

【評価方法】

評価者の方々に、学校関係者評価の概要や私立専門学校等評価研究機構が策定した学校評価基準（文部科学省生涯学習政策局による専門学校における学校評価ガイドラインに準拠）の評価項目および学校自己評価報告書を事前に示し、令和2年5月17日に、卒業生、会計関連業界団体・企業等の委員にご参集いただき、令和元年度学校自己評価報告書の点検項目に沿ってご質問、ご意見をいただきました。

【報告書】

いただいたご意見等を学校長以下教職員で組織する学校評価委員会で承り、要旨を本報告書にとりまとめました。令和元年度学校自己評価報告書と併せてお読みください。

【報告書の構成】

本報告書は以下のとおり記述しています。

- 学校自己評価報告書の評価基準・点検項目
- 評価者の意見・質問
- 質問・指摘の場合は本校の回答

【今後の取り組み】

ご意見は、次年度以降の、教育課程編成、各種計画などを立案する際、十分に考慮し、可能な項目より実現に向けて取り組んで参ります。

専門学校東京 CPA 会計学院 学校評価委員会

学校関係者評価者ご紹介（敬称略）

【卒業生】【関連業界団体・企業】

税理士法人 R I Z E 代表社員 税理士 田口益巳

協立管理株式会社 代表取締役 荒川 隆志

土屋会計事務所 税理士 熊崎富久夫

学校関係者評価者が所属する企業・団体の詳細は公式サイトをご参照ください

税理士法人 R I Z E <http://risetax.jp/>

協立管理株式会社 <http://www.kyoritsu-kanri.co.jp/>

土屋会計事務所 <https://tcy-tax.com/>

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-01~05】理念・目的・育成人材像

評価者意見・質疑

- 昔とは校舎も教員も変わっていて、特に学生数が少なくなっているが、授業見学をして、以前と変わらずに、教員も学生も真剣に授業に取り組んでいる様子であった。
- 税理士を目指す学生にとってはコース制となっているため選択肢となっていてよい。
- 明るい雰囲気就職率も良い。
- 会計の現場でもコミュニケーション能力が必要だ。学生時代に同年代の同じ目標の人と切磋琢磨して、自分の立ち位置を確立して行くべき。会計が第一だが、社会に出て役立つので、コミュニケーションを意識して指導することが必要。
- 税理士業界も厳しい時代、AI などが増えている。税理士だからこそ可能なコミュニケーションについて能力を高めて欲しい。
- クライアントの要望を待っているだけでなく、自分から見つけて伝えることができる税理士であるとありがたい。やはり、コミュニケーション能力が高くないと、社会で役立つ税理士とは言い難い。
- 学生時代にスキル修得とともに、人間関係を増やすことも重要。厳しい学びに共に耐えた経験は一生ものになる。

学校からの回答

学生のコミュニケーション能力の低下は教職員としてもひしひしと感じているところである。授業後の自己学習の際に、教員と学生が直接対話する機会になるので、会計スキルの話だけでなく、コミュニケーションについての指導も併せてやっていきたい。就職指導においてグループワークも積極的に取り入れていきたい。

基準 2 学校運営

点検項目【2-06】運営方針

点検項目【2-07】事業計画

点検項目【2-08】運営組織

点検項目【2-09】人事・給与制度

点検項目【2-10】意思決定システム

点検項目【2-11】コンプライアンス体制

点検項目【2-12】情報公開

点検項目【2-13】情報システム

これらの項目は、ご意見がありませんでした。

基準3 教育活動

点検項目【3-14~19】目標の設定

評価者意見・質疑

□会計はAIなどに代替されて、世の中からなくなる業種の上位にあると言われている。そのような面があることは否めないが、会計の全てをAIが代替してくれることは現状では考えられない。むしろAIを使って効率的に会計業務を実施できるスペシャリストの育成が不可欠だろうと思われる。

□税理士は旧来の税務販促だけではなく、経営コンサルタント的な要素が必要不可欠。専門的な知識だけではなく、教養を深め、広い視野を持ち、クライアントの事情も汲んでいかなければならない。

点検項目【3-20~21】教育方法・評価等

評価者意見・質疑

□昔ながらの徹底指導を維持・継続していることは高く評価できる。インターネットが普及し、遠隔授業やWeb授業が可能な時代に、手を汚して一心不乱に問題に打ち込むスタイルは貴重といえる。

□教科書を使わない常識外れの指導方針を今後も貫いてほしい。世の中には、時流に合わせて変えていくべきものと、変えてはいけないものがある。

□クライアントの経理担当者に当校の卒業生が何人かいた。非常に頼もしい子もいれば、どうも危なっかしい子もいた。個人差はもちろんあろうが、本校の卒業生であるのなら、一定の品質は担保して欲しいと思う。

学校からの回答

本校へ入学する前の教育の段階での話もあり、正直なところ厳しい学生は増えている。とはいえ、本校で「本物の簿記」を修得して、社会で貢献できるようにするという責務が変わるものではない。学生の個性を尊重しつつ、最大限の教育成果が出せるように、鋭意努力していく。

点検項目【3-22】成績評価・単位認定等

点検項目【3-23~26】資格取得等の指導体制

点検項目【3-27】教員研修等

これらの項目は、ご意見がありませんでした。

基準4 学修成果

点検項目【4-28~32】就職率・資格取得率等

評価者意見・質疑

- 以前は圧倒的な就職率を誇り、かつては毎年100%を続けていたはずである。就職環境の変化もあると思うが、かつての状態に戻せるように頑張ってもらいたい。
- 会計業界はAIに代替されるという話になっているが、現実としては、会計のできる人間は枯渇気味であり、需要は大きいと思われる。そのようなニーズをしっかりと捉え、有用な人材を業界に供給して欲しい。
- 税理士コースの就職率については、卒業後も学ぶ学生を鑑み、一律に評価できるものではないが、どのような事務所に就職するかで、その学生の将来は大きく左右される。就職先の斡旋はどのように行っているか。

学校からの回答

以前は、就職先の相談を積極的に教員にしてくる学生が多かったが、近年はWeb等を通じて、自分の生きたい事務所を自分で探す学生が増えている。そのような自主性は尊重していくところであるが、イメージだけ先行させて、就職後に自分に合わないことに気づき、早期に転職している学生も見受けられる。そのようなことがないように、就職先の相談について指導していく

専門卒と大卒とで待遇に差を設けられる会社が多いところであるが、本校の卒業生は、一流大学卒の同僚よりも高く評価されることがあると聞く。ぜひそのような人財をこれからも輩出してほしい。

点検項目【4-30】 退学率の低減

評価者意見・質疑

実際に雇っている側の者からすると、最近の若者は、残業時間が少し多かったり、業務上の難問にあたっただけで精神的に参ってしまう子が増えているように思う。学校でも苦慮しているところだと思うが、メンタルケアをぜひ考えて実施してほしい。

検定や国家試験のプレッシャーで一時離脱しても、戻ってこられるような関係を構築してほしい。

若者以外にもメンタルの病を発症している事例がある。会計職であっても人間関係で疲弊する人もいる。

学校からの回答

家庭内に原因があるケースも散見され、あらゆる事態に対応するのは困難であるが、メンタルケアやカウンセリングの重要性は認識している。学生からの何かしらのシグナルを機敏に捉えて、事がなるべく深刻化しないうちに、できるかぎりの対応をしたい。

点検項目【4-31~32】 卒業生の社会的評価

この項目は、ご意見がありませんでした。

基準5 学生支援

点検項目【5-33】 就職等進路

評価者意見・質疑

学生サービスセンターに足繁く通い、先生から業界のことや、メールの書き方など、きめ細やかにサポートいただいて就職先が決まった。

インターンの情報提供が少ないのではないか。実際に就職に結びつくインターンだけを選別してもインターン実績はあがらない。

学校からの回答

インターン情報を多く案内しても、並行して授業も検定試験もあるので、大多数は動けないが、希望する人にはできるかぎりの情報提供をしていきたい。

点検項目【5-34】 学生相談

点検項目【5-35~38】 学生生活

か。

学校からの回答

基本的な教育事業に関する施設・設備等については大きな問題は生じていない。エアコンで一部故障等が発生するので、定期的なメンテナンスを掛け、数年後には設備の更新を検討している。その際には、環境対策型の機器の選定を心がけたい。

点検項目【6-45】学外実習・インターンシップ等

評価者意見・質疑

一般的にインターンの重要性は高まっているように思われるが、本校ではその実施可能性や実効性が低いということもあって実施していないが、今後もこの認識でいくのか。

学校からの回答

本校の専攻する分野においてはインターンシップの有効性は乏しいと考えている。とはいえ、コミュニケーション能力や就職に対する心構えの強化という面では、座学での指導に限界があるため、インターンシップの可能性を模索していきたい。

点検項目【6-46】防災・安全管理

この項目は、ご意見がありませんでした。

基準7 学生の募集と受け入れ

点検項目【7-47~49】学生募集活動

評価者意見・質疑

本校の「本物の会計教育」という考え方は立派であるが、それでは高校生向けに訴求力が足りないのではないか。特に、商業科以外の学生から見ると理解しにくいと思われる。

体験学習会や未来塾は実施しているが、一般的なオープンキャンパスを行っていないのはなぜか。

学校からの回答

高校生に本校のよさを伝えるのに苦慮している。新入生や在校生の声を聞くとともに、入学に至らなかった高校生等へのヒアリングを試みる。また一般的なオープンキャンパスについては、他校では学生募集用に脚色されたものになっている現状を鑑み、本校ではありのままの指導内容を見せるという意図で敢えてオープンキャンパスと銘打っての開催は控えている。

評価者意見・質疑

□地元町会及び商店街の秋季例大祭において、出店の協力、お神輿への参加を行っているようであるが、継続することで信頼が増していくの、ぜひ続けていってほしい。

点検項目【10-60】ボランティア活動

この項目は、ご意見がありませんでした。

点検項目【10-59】公開講座・教育訓練

評価者意見・質疑

□公認会計士協会の研修会等を開催することは実務家との接点にもなりうるので、今後も続けていって欲しい。

基準 1 1 国際交流

点検項目【11-62~65】国際交流

この項目は、ご意見がありませんでした。

以上

学校法人高橋学園

専門学校東京 CPA 会計学院

〒164-0001 東京都中野区中野 3-39-9

学校関係者評価報告書についてのお問合せ先
経営企画部